

えこびよんと地球のために

一人一人ができること

6月の環境月間に、一人一人が取り組むことができる「地球温暖化」の緩和、適応を目指した取り組みを募集します。

服装を工夫して快適に「WARM BIZ」



団扇や水分を補給したりして、体感温度を調整しながら「COOL BIZ」



緑化や植林活動に参加します。



徒歩や自転車を愛用。



未来に続く「階段」利用。



参加された方には、特製えこびよんソーラーLEDキーホルダーとノートブックを進呈します。



2022年度環境目標(省エネルギー)

市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスの特定温室効果ガス排出量を基準排出量から27%削減する。



関連するSDGs

3 持続可能な消費と生産	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任、つかう責任
8 働きがいも経済成長も	13 気候変動に具体的な対策を	15 陸の豊かさも守ろう

法政大学は、「持続可能な地球社会の構築を目指す拠点」としてSDGs(持続可能な開発目標)の重要課題と関連づけて取り組みます。

2022年5月 法政大学環境センター
TEL:03-3264-5681, E-MAIL:ickankyo@hosei.ac.jp





環境月間特別企画(概要)

我々が暮らす「地球」においては、科学技術の恩恵を受けて、教育研究環境や生活が格段に便利になり、人々に様々な機会をもたらしましたが、同時に「地球温暖化」や「生物多様性の喪失」を始めとした地球環境問題はかつてないスピードで進んでいます。

我々の生活においては、実験、授業、研究、課外活動、食事を始めとした一つ一つの「行動」がもたらす我々が暮らす「地球」への影響は一つ一つの「選択」によって変わります。とりわけ、キャンパスライフにおいては、「地球温暖化」の緩和、適応を目指して、「活動シーン」にあわせたアプローチを意識する必要があります。

法政大学環境センターは、「環境月間特別企画」として、我々が暮らす「地球」のために、「地球温暖化」の緩和や適応を目指して、本学学生の皆さん一人一人ができることを大募集致しました。

母校愛の強い兔で、自分の背中に地球の未来がかかっていると思いこみ、地球環境問題の解決に向けて世界を舞台に様々な活動をしている「えこびよん」と身近なところから地球環境問題に取り組むきっかけとなればと願います。

テーマ

2022年6月の環境月間に一人一人が取り組むことができる「地球温暖化」の緩和や適応を目指した取組事例を大募集しました。

実施期間

2022年6月1日(水)～2022年6月30日(木)

対象

本学学部・大学院生

結果発表

我々が暮らす「地球」のために、一人一人ができることをテーマとした取組事例を発表します。

参加者は、「COOL BIZ」、「WARM BIZ」の推進、スマートムーブの推進、緑化、植林活動への参加、階段利用等の取組分野から「えこびよん」と「地球」のために一人一人ができることに取り組ましました。

住川 未築
(経営学研究科経営学専攻 1年)

取組分野:

2)スマートムーブの推進

5)その他:【例:ちょっとしたゴミを持ち帰って分別する】

企画に関連した具体的な活動内容をお知らせ下さい。

健康も兼ねておりますが、自宅から職場までを公共交通機関を使うだけでなく、徒歩で通勤する日を週1度、設けております。気づいた小さなゴミを拾ったり、自分自身が自動販売機を利用した際は、必ず分別を正しくするなど、小さなことであっても大勢が束になると考えれば、大切なことだと思っております。会社では、クリーンスタッフの方の負担にならないよう、社内でのゴミ分別は社員同士の声掛けもあり、お互いがスマートムーブを超えてゴミについても取り組む環境を心がけております。これらの活動をより一層積み重ねて参ります。

参加の抱負をお知らせ下さい。

徒歩での通勤を通じて、環境をもう一步幅広く考える個人活動を行います。具体的には、徒歩通勤時のゴミ拾いとその分別に取り組みます。

企画に関連した活動報告をお知らせ下さい。

出先で移動中やウォーキング中に買ったペットボトル飲料は、飲み終わったものを自宅に持ち帰り、細かく分別してリサイクルゴミへだしました。また、在宅勤務が定着したので、家では自分の気に入ったオシャレなグラスに飲料を注いで、楽しくエコ活動を推進しました。

参加後、地球環境問題に対する意識は変わりましたか？ ⇒ 変わりましたに○します。

今年は猛暑が6月から始まりましたので、スマートムーブ(ウォーキング)中に自動販売機の周りに捨てられている空き缶、ペットボトルが目につきました。以前は、気に留めていなかったのですが、個々人のちょっとした行動がエコにつながるのではと感じました。

企画に参加した感想や皆さんへのアドバイスをお知らせください。

企画に参加した感想として、東京の街では、地下鉄、JR、公園、街の通りなど、至る所で清掃に携わっている方がいるということを感じようになりました。その方々が掃除してくれるから、ゴミをちょっとポイ捨てしてもいいよねという意識ではなく、清掃を下さる方々が気持ちよくスムーズに業務を行えるためにも、必要最低限の環境への姿勢は、個々人が持っていれば尚良いのではないかと思います。





佐藤 真理子
(生命科学部応用植物科学科 3年)

取組分野:

4)階段利用 (※上り1階、下り2階は極力エレベータ、エスカレータを使用しない等の取組)

企画に関連した具体的な活動内容をお知らせ下さい。

大学や他の場所でも1~2階分はエレベータを使用せず、3階以上分も極力歩く。

参加の抱負をお知らせ下さい。

普段は、歩いた方が速いからという理由で階段を利用していたので、エレベータの方が速い場合は疲れていなくてもエレベータを利用していました。今期間中は、極力階段を利用して移動していきたいと思います。

企画に関連した活動報告をお知らせ下さい。

学内ではエレベータを全く使用せず、階段で移動しました。またこの1か月間、駅利用時など学外でも階段移動が可能な場合はできる限り階段を利用しました。

参加後、地球環境問題に対する意識は変わりましたか？ ⇒ 変わった

ただ歩いていたただけだが、小さなことの積み重ねが地球環境問題に関わっていると日ごろから意識することができました。

企画に参加した感想や皆さんへのアドバイスをお知らせください。

普段何気なく、また環境とは関連付けずに健康のためと思って階段を上り下りしていましたが、地球環境問題への対策の1つだと実感しながら行うことができました。階段利用に加え、「COOL BIZ」、 「WARM BIZ」や、徒歩・自転車・公共交通機関の利用なども、日ごろから地球環境問題を意識しながら行っていきたいです。

岩見 璃莉
(文学部地理学科 3年)

取組分野:

4)階段利用 (※上り1階、下り2階は極力エレベータ、エスカレータを使用しない等の取組)

企画に関連した具体的な活動内容をお知らせ下さい。

上り1段、下り2段は階段で移動する。高層階への移動はできるだけエレベータではなくエスカレータを利用する。

参加の抱負をお知らせ下さい。

継続して取り組めるように頑張りたいと思います。

企画に関連した活動報告をお知らせ下さい。

少しの移動の際は出来るだけ階段やエスカレータを利用し、エレベータを使わないようにすることができた。大学では節電のためにエスカレータが停止していたこともあり、階段を利用することが増えた。

参加後、地球環境問題に対する意識は変わりましたか? ⇒ 変わった

意識的に階段を使うようになった。

企画に参加した感想や皆さんへのアドバイスをお知らせください。

階段利用は最初のうちは疲れるかもしれませんが、慣れてくると苦ではなると思います。また、運動にもなるので健康にも良いです。一人一人が環境改善の意識を持つことで、より良い方向へ環境が変化していくと思います。まずはエレベータの利用を控えるなど簡単に出来ることから一緒に取り組んでいきましょう。





村石 果奈
(法学部法律学科 2年)

取組分野:

4)階段利用 (※上り1階、下り2階は極力エレベータ、エスカレータを使用しない等の取組)

企画に関連した具体的な活動内容をお知らせ下さい。

駅構内・電車の乗り継ぎは必ず階段を利用する！

参加の抱負をお知らせ下さい。

私はいつもつつい埃スカレータに乗りがちですが、階段利用を習慣化することで「当たり前」にしていきたいです。

企画に関連した活動報告をお知らせ下さい。

私が普段乗り換え含めて通学で利用している、JR飯田橋駅、秋葉原駅、川崎駅の構内の移動において、1か月間、エスカレータは利用せず階段を使ってホームの移動等をした。

参加後、地球環境問題に対する意識は変わりましたか？ ⇒ 変わった

普段の日常生活の中で当たり前利用している物でも、「これは本当に無ければ困るものなのか」と考えるようになった。そして、日常を見渡してみると意外にも「無いなら無いで良い」ものが多く存在することに気付いた。

企画に参加した感想や皆さんへのアドバイスをお知らせください。

「エスカレータを使わない」ということを通して、私の場合は意外にも、使わないことによるデメリットは生じなかった。多少疲れているときでも、ホームの移動位の階段なら、普段から習慣にしまえばほとんど苦にならないことが分かった。このことから、駅以外の様々な場所でも、「無ければ絶対困る」ような場所だけでなく、エスカレータが作動して unnecessary 電力が多く消費されているのではないかと思った。

そして、この経験から、他の人にも「本当にエスカレータでないとダメなのか」と考えてほしいと思った。始めのうちはちょっとだけ自分に厳しくして、階段を使う習慣をつけてほしい。そうすれば、意外にも階段でも大丈夫であり、その分 unnecessary 電力が使われていたことに気付くはずである。



山田 慎之介
(経済学部経済学科 4年)

取組分野:

- 1)「Cool Biz」、「Warm Biz」の推進
- 3)緑化、植林活動への参加

企画に関連した具体的な活動内容をお知らせ下さい。

- ①自室にはサーキュレーターを設置し、エアコン以外を使った温度調整を行います。
- ②住んでいる団地の共有スペースを使った園芸の管理を行います。また、NHKの園芸番組の視聴や読書を通じて、自然への理解を深めます。

参加の抱負をお知らせ下さい。

自然を豊かに保ち続けられるように、知識をつけながら行動していきます。

企画に関連した活動報告をお知らせ下さい。

- ①自室のエアコンを稼働させずに過ごしました。家の中で使っていいエアコンを一台に限定し、普段過ごすときはその部屋で過ごすことで消費電力の低減を目指しました。自室ではサーキュレーターと氷枕で過ごしました。
- ②家の周りの公共スペースを用いた花壇に植物を植える活動を行いました。普段身の回りにある植物に関心を持って生活をするきっかけとなりました。

参加後、地球環境問題に対する意識は変わりましたか？ ⇒ 変わった

普段環境に対する影響の意識をもって生活をしようとしても具体的な行動にまで落とし込めないことがあると思います。ですが、身近にできることを徐々に増やすことで生活の中で環境への意識を持つことに繋がりました。

企画に参加した感想や皆さんへのアドバイスをお知らせください。

テレビ等では、しきりに環境への影響を抑えようといったことが喧伝されていますが、まず最初に取り組むべきことは、私たちが楽しみながら知識をつけることだと思います。人間は楽な方へと徐々に行動が移っていきがちですが、環境対策に楽しみを見出すことができれば、ひとりひとりの行動が具体的なレベルで変わっていくと思います。

コロナ禍において「自然」とのつながりを大切にした取り組みですね。

HOSEI